

三同教研究大会 分科会概要一覧

《学校教育分野》

【第1分科会】

「命の大切さ」—生き物とのかかわりを通して—

えびす認定こども園 藤田 侑子

本園は、園庭、芝生ひろば、菜園があり、一年を通して身近な生き物や動植物に触れる機会が多くあります。特に、春は毎年戸外や、散歩先で見つけた虫や植物に思いを寄せ、かかわりを喜んでいます。感じたり考えたりしたことを保育者や友だちと共有し合いながら、変化に気づいたり、発見を楽しんだりしています。

身近に存在する自然とのかかわりの中で、子どもたちはどのようなことに興味関心を向けているのか、また、かかわりを通して、一人ひとりが命あるものとどう向き合っていくのかを、共に学んでいます。

【第2分科会】

一人ひとりが安心して自己開示できる学校づくり

— 人権の可視化を通して 人権意識を育てる取組 —

三木市立口吉川小学校 中上 由佳

本校では、「共に学び、共に生きる子の育成」を人権目標に掲げ、「一人ひとりが安心して自己開示できる学校づくり」を柱とした人権教育の実践に取り組んでいます。

その実現に向けて、「人権の可視化」と「自己開示の工夫」を意識した環境づくりや指導を進めています。人権を可視化する取組を日常的に行うことで、児童は自分や友だちを多面的に見つめ、それぞれの良さや個性を認め合い、伝え合うことができるようになります。このような経験の積み重ねが、児童の人権意識の向上につながると考えています。さらに、人権意識の高まりは一人ひとりに安心感を生み出し、自己開示への抵抗感を和らげます。その結果、互いを尊重し合いながら、自分らしさを表現できる風土が生まれ、人権が大切にされる学校づくりにつながると考え、実践を積み重ねています。

【第3分科会】

人権教育の実践 ― 自ら判断し、たくましく生き抜く生徒の育成 ―

三木市立三木中学校 小柳 博之

本校は「幸せをつかむチカラを育む～自ら判断し、たくましく生き抜く生徒の育成～」という教育目標のもと、「主体的に学び、自分の想いや考えをしっかりと表現できる生徒」「自他の生命や人権を大切にできる生徒」「心身ともに健康で粘り強く挑戦する生徒」の育成を目指している。統合により市面積の約3分の1を占めることとなった広い校区から、458人が集う多様性にあふれる学校です。

人権教育を全教育活動の中に位置づけ、差別やいじめ解消への態度育成と人権意識の高揚を図ることを重点とし、心が通い合う仲間作りを進め、人権感覚を豊かにし、自立・向上を促すよう努めています。

《社会教育分野》

【第4分科会】

「できる人が、できるときに、できることを」

― ささえ合いから考える持続可能な PTA 活動 ―

三木市立志染小学校 PTA 今枝 祥子

本 PTA では、親子人権学習の前に全学年の学年委員と担任が隣保館で打ち合わせをし、保護者もかかわりながら人権教育を進めています。毎年実施している「志染っ子人権デー」において、令和7年度の PTA 人権講演会では、子どもたちからの希望が講師の選定に生かされ、子どもと大人がともに学ぶ機会となりました。

本年度は、PTA 活動についてのアンケートを行いました。協力したい気持ちがありながらも、仕事や家庭の事情、周りに迷惑をかけるのではないかとというためらいを抱える姿が見えてきた一方、分からないことを教え合ったり、子どもを見ていてもらったりする支え合いは、日常の中にすでにあります。外国から来られた保護者が学年委員を務めている例もあります。

一人一人の思いや背景を知り「できる人が、できるときに、できること」でかかわる。人権学習で大切にしてきた視点を PTA 活動にも生かし、誰もが無理なく参加できる持続可能な活動について考えます。

「PTAと人権活動のかかわり方」

—主体的に人権活動に取り組む為に—

広野小学校 PTA 小山 稔和

広野小学校では年に1度、高学年を対象にPTAが主催する人権活動を行っています。基本的には専門の講師を呼んでの人権講演を開催しています。また、保護者にも参加してもらいやすいように、オープンスクール後に開催しています。令和6年度、7年度の活動報告、今年度行う人権講演の内容を中心に報告します。また、活動を通じて見えてきた課題、それらを改善するための提案までしたいと思っています。

【第5分科会】

「人にやさしい三木南」 — 手をさしのべあい・つながり・支えあう —

三木南老人クラブ 土佐ふみ子

三木南地区は、平成19年に作られた新しい地域で、地域新興住宅地域と農村地域で構成されています。地区内に8つの自治会があり、そのうち老人クラブがあるのは2つの地区だけですが、「老いを楽しみ、豊かな生活を送る」ために、スポーツや文化活動などを通して、会員みんなで住みよいまちづくりに取り組んでいます。近年は、クラブ会員の高齢化や入会者の減少などの課題がありますが、誰もが「ここに暮らしてよかった」と思えるように「手をさしのべあい、つながり、支えあう」ことを大切にしながら活動を続けています。

「誰もが取り組める人権学習をめざして」

—地区別研究大会と住民学習を心に残るものに—

吉川町人権・同和教育推進協議会 谷郷 早百合

「人権って難しそう・・・」そんな思いをもつ人が、気軽に学習会に参加し、人権尊重の大切さに関心をもってもらえるよう、一步を踏み出す人権学習の入口を模索しています。

吉川地区研究大会「あったかいいいな大会」では、映画の視聴を通して心（記憶）に残る大会をめざしました。映画上映2年目の昨年は参加者も増え、映画監督の講演会には、感動したという声が寄せられました。

各自治会の住民学習は開催率が上がってきたものの、若い人の参加が少なく、参加者が固定化しているという課題があります。そこで、学習にDVDを活用するほか、新しい取組を紹介したところ、社会教育推進委員の中に、地区の実態に合ったテーマを設定しようとする動きが見られるようになりました。

【第6分科会】

大切な人材としての障がい者雇用

東光機材株式会社 藤田 高弘

建築金物等の金属加工を行う当社では、障がい福祉課からの依頼で受けた職場体験が障がい者雇用のスタートでした。当初は手探り状態で社内に戸惑いや摩擦もありましたが、本人と腰を据えて本音で向き合い、障がいを個人の特性として理解することを全社員ですすめていきました。作業面では、特注治具の製作による工程の簡素化や作業場への手づくり間仕切り設置など「人が合わせるのではなく、物や環境を人に合わせる」工夫を徹底しました。その結果、誰もが作業しやすくなり、不良率の大幅な低減と生産性の向上を実現しました。

過度な特別扱いをせず、一歩踏み込んだ対話を通して個々の得意分野を活かした適材適所の役割を見出すことで、障がいのある社員もそうでない社員も大切な人材として育成しています。障がいのある社員が働きやすい職場環境づくりは、すべての社員の働きやすさにも直結します。手探りの挑戦の中で得た多くの気づきと、障がい者雇用をすすめる企業としての具体的な取組と実践を詳しく報告します。

【第7分科会】

「誰もが自分らしく暮らせる福祉のまちづくりをめざして」

— 地域と協働した認知症支援の取組 —

三木市社会福祉協議会 湯上 泰考

近年、認知症のある人やその家族への支援について、国全体でさまざまな取組が進められています。高齢化が進む中、認知症は決して特別なことではなく、誰もが自分事として向き合うべきことです。また、本人や家族の立場だけではなく、地域で暮らす一員として認知症のある人とかかわる機会も増えています。

三木市社会福祉協議会では、相談支援や成年後見制度をはじめとした権利擁護支援、デイサービスやホームヘルパーなどの介護サービス事業を通じて、認知症のある人やその家族を支援しています。また、地域住民の皆さんと協働しながら、ふれあいサロンや見守り活動、認知症カフェなどの取組を支援しています。これらの活動を通じて、住み慣れた地域で安心して生活するためのつながりづくりや認知症への理解促進に取り組み、地域で暮らす誰もが互いに支え合いながら、自分らしく生活できる福祉のまちづくりをめざしています。